

人物図鑑

ねむろを愛する
素敵な人たち



ごみのない私たちの町が大好きです

「ごみのポイ捨て防止などに関する標語」最優秀賞受賞

花咲小学校 3年 嶋田初音さん 「ポイ捨てみらいの地きゅうがないている」
厚床小学校 6年 渡邊弘記さん 「ごみ捨てた自分が一番わかっている」
歯舞中学校 3年 小田島那さん 「ポイ捨ては僕等の未来も捨てている」

ごみのポイ捨てや不法投棄は、町の景観を壊すだけではなく、未来に引き継ぐ自然環境までも壊してしまいます。市がそんなごみ問題についての標語を、市内の小・中学生を対象に募集した結果、子どもたちが普段から感じていることをつづった作品714点が寄せられました。

2月1日、最優秀賞の3名に長谷川市長から賞状と記念品が贈られ、思いがけない受賞に笑顔を見せていました。小学校低学年の部で受賞となった嶋田さんは、「学校からのおたよりで、標語の募集を知りました。ごみはごみ箱に捨てることを、みんなが当たり前前に思えば、ポイ捨てもなくなっって町がきれいになります。」と、自分自身もポイ捨ては絶対にやりませんと答えてくれました。

小学校高学年の部では渡邊

さんが受賞し、「学校で、年に2回町内の清掃をやっています。道路に、ペットボトルやたばこの箱がたくさん落ちています。車からのポイ捨ては、絶対にやめてください。」と、普段から一人ひとりの心がけが大切なことを訴えます。小田島さんは、中学校の部の受賞です。「観光地となっている納沙布岬への道路沿いは、根室市民だけではなく観光客のポイ捨てでも汚されています。少しでも多くの人たちが、町そして周りの環境を大切にしなければならぬという意識が必要だと思います。」根室のすばらしい自然を、大切に残したいという小田島さんの願いが伝わってきます。

私たち大人は、標語に応募してくれた子どもたち全員に「根室の町がいつまでも美しい町であってほしい」という思いに、こたえていかなければなりません。

受賞作品は、市内各所に設置される立看板などに使用され、ごみのポイ捨てや不法投棄、ごみの資源化・減量化等の啓発用として活用されます。街角で標語を見かけたときに子どもたちの思いを裏切っていないかどうか、もう一度振り返ってみましょう。